

12 個別支援計画(変更案)作成の会議録(就労継続支援B型)

資料12

作成日:

R●/●/●

利用者氏名	茨城 ヒロシさん		事業者名	就労継続支援B型事業所「スマイル」	
開催日時	R●/●/● (●)		サービス管理責任者氏名	本田一郎	
開催場所	就労継続支援B型事業所「スマイル」 相談室				
会議出席者	所属	氏名	所属	氏名	
	ご本人	茨城 ヒロシさん	職業指導員	松阪てるお	
	管理者	所沢洋子	就労支援員	熊野ゆうこ	
	生活支援員	鈴木さくら	サービス管理責任者	本田一郎	
現状および検討事項			検討内容・対応		
<p>○個別支援計画のモニタリング(中間評価)表参照</p> <p>○ご本人から 就労に向けては、3年後には就職したいという気持ちと、このままでよいという二つの気持ちがあり、自分ではどうしたいのかを決められない。就労訓練は継続したいと思っている。 毎日の生活に追われて心身ともに余裕がなく、「自分はだめだな」と思う。自室の掃除や洗濯、調理は必要以上にがんばってしまい、疲れてしまう。遅刻も増えている。 昆虫博物館に行きたい気持ちはあるが、疲れてしまいなかなか行くことができない。</p> <p>○生活支援員から GHピアハウスの世話人から聞き取った生活の様子を報告。 帰宅後、疲れている様子。家事は必要以上にがんばってしまい、そのことで更に疲れてしまうことが課題。 また、しばしば「自分はだめだ」と思い悩む傾向が強くなっているのが心配。 GHでは、ゆっくり身の回りのことをする日課設定を検討中とのこと。 また、朝起き難いとのことで遅刻が多い。 遅刻の連絡は必ずあるが、その電話をかけるのもストレスになっているかもしれないと感じる。</p> <p>○職業指導員から 就労アセスメントに基づいて、製造や木工作业を中心にプログラムを組んでいる。 経験としてその他の下請け作業にも参加してもらうことがある。 下請け作業も手先の器用さを活かしてそつなくやっている。しかし、集中できずに、すぐ疲れてしまう様子で、基本作業時間を延ばすことを試行したが現時点では困難だと判断している。 毎週水曜日に面談の日を設けたが、自分の気持ちをストレートに話すことができず、黙り込んで殻に閉じこもることがある。 面談日の設定や、面談の進め方を検討したい。</p>			<p>○検討事項</p> <p>①就労訓練と安定した生活を送るための支援を同時に継続していくかどうかを検討する。 ②就労に向けて前向きに取り組めるプログラムや支援内容を具体的に考える。 過度のストレスにならない日課や週案を提案する。 ③面談の設定、面談の進め方を検討する。</p> <p>○対応</p> <p>①グループホーム入居と就労訓練が併行して始まり、ご本人にとって、初体験することや新しいことが重なり、心身ともにストレスがかかっているように見える。 ご本人の気持ちに迷いや、自分ひとりでは整理できない思い等がある。 今後は、グループホームと密に連携をとって、支援を組み立てていく。</p> <p>②「就労したい」という意思是確認できるが、「自分では決められない・自分に自信がない」等、前向きな思考ができない。 就労アセスメントの結果を再度丁寧に説明し、自分の強みや得手なことを確認する。ご本人が納得できるように、何度も繰り返し一緒に確認し、話し合う。 アセスメントの結果説明は職業指導員が担当する。</p> <p>就労訓練の日課や週案については、この会議で案を作成し、サービス担当者会議に提案する。後日、改めてご本人の気持ちを確認し、家族・グループホーム側の同意をもらい実施する。 具体的には、 就労訓練は午前中のみの2時間を基本作業時間とする。昼食後に帰宅する。 ご本人が得意とし、評価も高い、手先の器用さと製品の完成度が求められる作業だけに取り組み、成功体験・達成感が感じられるような支援をする。</p> <p>③ご本人が話しやすい人間関係を作るため、面談日を増やし、面談担当は変えず、生活支援員の鈴木が行う。</p> <p>④楽しみにしている昆虫博物館への見学はグループホームの支援として設定して頂く。</p>		
今後の課題 および確認等	<p>・今後就労に向かうためにも、日常生活を見直し、生活リズムを整えることを優先した支援が必要。そのため、グループホームとの連携を密にして支援の見直しをする。</p> <p>・ご本人が自分に自信がなく、しばしば自分はダメだと思い、思い悩むようなので、就労アセスメントの手法を用いて、ご本人の得手として評価できることを丁寧に伝え、その上で、強みを伸ばし、弱みを支援するという方向で、プログラムや支援を組み立てる。</p>				